２０２０年6月１６日（火）

老球の細道５４８号

スポーツと人種差別

会津バスケットボール協会　室　井　冨　仁

バスケットボール「24 秒ルール」は、黒人のバスケットボール進出を決定づけた重要なルール改変だった。社会的な意義を持つスポーツのルール改変というのは歴史的に見ても、他に見当たらない。〈生島淳著『スポーツルールはなぜ不公平か』新潮選書より〉

昔はシュートまでの時間制がなかったので、1度リードすると、その後はシュートしないでひたすらパスを回して逃げ切るゲームが横行した。そのために得点が少なく、観客が退屈するゲームが多くなってきてバスケットボールの人気が停滞してしまった。

そこで 24 秒ルールが世に出てきた。そこから試合内容は一変した。

＊試合がアップテンポになり、ボールを運ぶガードのスピードが重要になった。

＊セットオフェンスに時間を取る余裕がなくなってきたため、インサイドにボールを入れる機会が少なくなり、アウトサイドシュートが多用されるようになった。

＊長身者が務めるセンタープレイヤーに走れて、スピードが要求されるようになってきた。

以上の理由から、白人選手より運動能力が高いと見なされる黒人選手が重宝されるようになり、ＮＢＡへ多数進出するようになったようである。人種差別を乗り越えるためにも。

現在ＮＢＡはアメリカ４大プロスポーツの中で最も黒人選手の割合が多いと言われる。もし２４秒ルールが導入されなければ運動能力に秀でた黒人選手は、野球やアメリカンフットボールへもっと数多く分散していただろうと言われる。

米国ミネソタ州で黒人男性のジョージ・フロイドさんが白人警官に暴行されて死亡した事件が起こった。それに抗議するデモが新型コロナウイルス同様世界中に人種差別デモのパンデミックスを起こしている。特にフロイドさんはかつてバスケットボールのトップアスリートであったためにＮＢＡ関係者が数多く抗議のコメントを発表している。

アブドル・ジャバ―は「差別はホコリのようなもの。光を当てるとあたり一面にあると気づく。差別というウイルスはコロナより感染力が強い」と訴えた。また、レブロン・ジェームスは「アメリカはなぜ俺たちを愛してくれないのか」と嘆いた。そして、世界ＮＯ１のレジェンド、マイケル・ジョーダンは人種差別との戦いに１億ドルを寄付したという。

スポーツ界では黒人選手たちが色々な種目で大活躍し、多くの人たちからリスペクトされているが、アメリカの人種差別はまだまだ根っこが深いようである。そんな中、多くのスーパースターたちが抗議の声を上げていることに勇気づけられる。スポーツだけでない。

スポーツは平等、そして相手へのリスペクトで成り立つ。社会もそのようであってほしい。私たちスポーツに関係している者は人一倍差別、平等に敏感であらねばならない。わが日本においても、かつて福沢諭吉が自著『学問のすすめ』において「天は人の上に人を作らず、人の下に人を作らず・・・・」と説いている。今回の米国の事件は対岸の火事ではない。